

高齢者、障害者等が利用しやすい建築物の整備に関する条例における 宿泊施設の規定見直しの考え方について(案)



はじめに

- 都は、平成18年に「高齢者、障害者等が利用しやすい建築物の整備に関する条例（以下「建築物バリアフリー条例」という。）」を制定し、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（以下「バリアフリー法」という。）」に定められている対象建築物の拡大とバリアフリー化に関する整備基準の強化を行ってまいりました。
- ホテルや旅館においては、バリアフリー法で車椅子利用者用客室の設置が義務付けられており、都は建築物バリアフリー条例により、国を上回るバリアフリー基準を定め、車椅子利用者が円滑に利用できる宿泊環境の実現に取り組んでおります。
- 平成31年3月には、東京2020大会と超高齢社会の進展等を見据え、建築物バリアフリー条例を改正し、車椅子利用者用客室以外の一般客室について、段差の解消や出入口の幅等に基準を設け、車椅子利用者をはじめ、多くの人々が利用しやすい客室の整備を促進してまいりました。
- 東京2020大会の開催を契機に、都民のバリアフリーに対する理解も深まってきており、国においても、一般客室のバリアフリーについて、より高い基準がガイドラインとして示されるなど、高齢者、障害者のみならず、すべての利用者にとって、ホテルや旅館がより安全、安心、快適なものとなることが求められています。
- このため、都は、東京2020大会のレガシーとして、電動車椅子も含む車椅子利用者がより使いやすい一般客室の整備促進に向けて、一般客室の基準の見直しについて検討を行い、『高齢者、障害者等が利用しやすい建築物の整備に関する条例における宿泊施設の規定見直しの考え方について（案）』として取りまとめました。

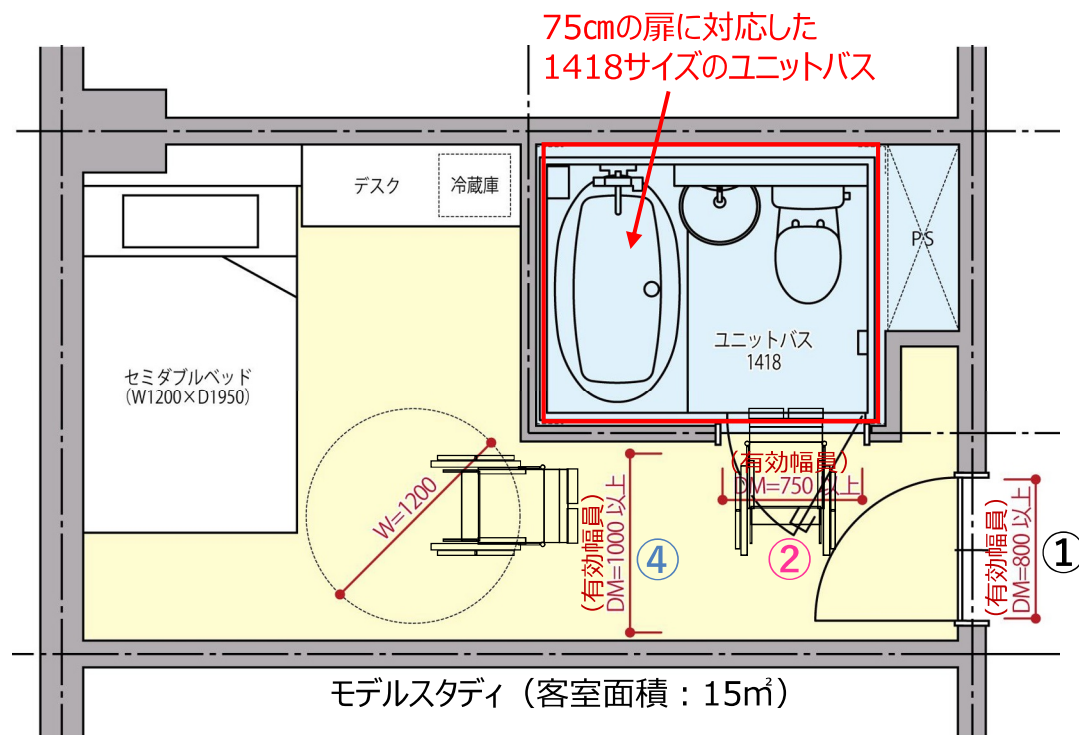
条例の見直し（案）について

○ 宿泊施設（一般客室）に係る条例の規定の見直し案

	現 行	見直し案
① 客室の出入口幅	80cm以上（変更なし）	
② 浴室等の出入口幅	70cm以上	70cm以上（客室面積15㎡未満） 75cm以上（客室面積15㎡以上）
③ 客室内の段差	段差を設けない（変更なし）	
④ 浴室等前の通路幅	規定なし	80cm以上（客室面積15㎡未満） 100cm以上（客室面積15㎡以上）

対象：延べ1,000㎡以上の新築等を行うホテル又は旅館

電動車椅子も含む
車椅子使用者がより使いやすい
一般客室の整備を促進



客室面積15㎡以上

- ・浴室等の出入口幅 75cm
浴室等前の通路幅 100cm を確保することが可能
- ・1418サイズのユニットバスの使用が可能

（参考）

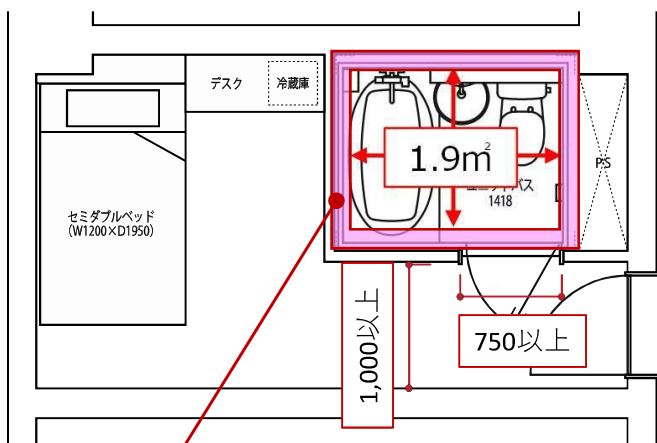
新築ホテルにおける面積15㎡以上の客室の割合：約 73%※

※ 調査対象：条例施行後（R1.9.1以降）に着工した延べ1,000㎡以上のホテル又は旅館（新築29施設：計約3600室）

○ 条例の見直しとともに質の高い客室の整備に向けた促進策として、下記の取組を実施・強化してまいります。

容積率緩和制度の周知

多くのホテルで使用される1216サイズのユニットバスの面積（1.9㎡）を超える部分の容積率を緩和できる仕組みを周知

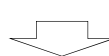


超える部分は容積率不算入
1216 (1.92㎡) → 1418 (2.52㎡) のサイズアップに伴い、1室あたり0.6㎡の緩和
→ 1フロア25室で客室1室分 (15㎡) を緩和

➡ ゆとりある客室と浴室を誘導

バリアフリー改修への補助

質の高い客室の整備を誘導するため、一般客室のバリアフリー改修に対して補助を実施



望ましい整備水準への改修



➡ 客室のバリアフリー化を促進

より良い客室の整備に向けた周知

パンフレット、セミナーにより望ましい整備水準を周知
また、とうきょうユニバーサルデザインナビ等により新基準に適合した宿泊施設の情報発信



(参考)
パンフレット：
建築物のバリアフリー化を進めるために



新基準適合客室の情報を追加

(参考)
とうきょうユニバーサルデザインナビ

➡ 質の高い客室の整備を誘導